

埒

あれはアオサギ

知らぬ間に此処ねぐらを埒ねぐらと決めたよう

一歩一歩踏みしめて

自分のテリトリーだと

堂々と歩く 幽雅に歩く

林
恭子

夜は喬木を

寢所と定め

身を守る

あれはアオサギ

眼を外した隙に身を隠す

飛んだ気配は ない

漂鳥と

清夏とは言えぬが

潜んだ藪かげで明日の命を思う